令和５年二級建築士学科試験　合格推定点と講評

講師の岡部です。
昨日の二級建築士学科試験を受験された皆さん！お疲れ様でした。手応えはいかがでしたか？
令和５年　二級建築士学科試験の講評をいたします。

■TAC 合格推定点

TAC 合格推定点　60 点以上
TAC 各科目基準点　計画 13 点以上、法規 13 点以上、構造 13 点以上、施工 13 点以上

今年も過去問をしっかり取り組んでおけば、合格できる内容だったかと思います。自己採点で無事に合格点に達した方は、すぐに設計製図の対策に移りましょう。
なお、この推定点は TAC が独自に算出したものです。実際の合格点とは異なる場合がありますことをご了承下さい。毎年受験生の答案状況に応じて基準点が変わることがあります。今年は施工がやや難しめでしたので、合格基準点の切り下げがあるかもしれません。試験実施機関による正式な合格発表は 8 月 21 日(月)が予定されていますので正確にはそちらをご確認下さい。

それでは、講評です。

●計 画

いくつかの新しい出題がありましたが、全体的には過去問ベースで対応可能な問題が多く**標準的な難易度の問題**だと思います。設計製図と関わりの深い科目ですので、今年の課題「専用住宅」に関連する問題には特に注目しておくと良いでしょう。

【建築史】毎年最初に、日本建築史の出題があります。そして毎年、新規の建物が選択肢に混じります。今年も「東求堂」といった新規の建築物が出題されました。しかし正答肢は過去から頻出の「三仏寺投入堂」で、日吉造りと懸造りという建築様式の違いでした。このように新規の肢が正答肢になることは少ないので、新規に惑わされないことが大事です。
【環境工学】Ｎｏ10 の環境評価・地球環境等に関する問題では肢１で「年間の一次エネルギーの収支を正味ゼロ又はマイナスにすることを目指した建築物の評価」は「CASBEE」と出題されましたがこれは×。この内容はビルで言えば「ZEB」、住宅で言えば「ZEH」になります。「ZEH」は設計製図の「専用住宅」にも関係しそうですので、注目しておきましょ

う。
【計画各論】Ｎｏ18 は、住宅の防犯について問われた新規問題です。二級建築士は木造と住宅からの出題が多いので、日頃からアンテナを張って情報をつかんでおくと良いですね。正答は肢４。網入りガラスが防火に対して用いられるということを思い出せれば正答にたどり着けました。
【建築設備】Ｎｏ22 給排水衛生設備に関する問題では、肢１の「緊急遮断弁」が新規の問題で、それが正答肢なのでやや難しい問題です。受水槽の出口側にとりつけて非常用の水を確保します。

●法 規

昨年は難易度が低く合格基準点が１点下がりましたが、**今年は標準的～やや難しい問題**でした。計算問題（建築面積や建蔽率）に新規の内容が混ざりやや難しい。文章問題でも新規の内容が正答肢になっている問題がいくつかみられ、法令集をひく力がためされた問題だったと思います。

【建築基準法】Ｎｏ１の敷地面積などの計算問題では、線路敷地が初出題。これに高低差が加わり慌てさせられます。しかし答えは法令集にありますので、正答肢にかならずたどりつけます。おちついて計算するようにしましょう。Ｎｏ８の肢５「補強コンクリートブロック造の耐力壁の厚さを 15 ㎝とした。」、Ｎｏ９の肢３「竪穴区画の直接外気に開放されている廊下」はいずれも新規の内容でそれが正答肢となりました。新規の内容が正答肢になっているということは、法令集を読んで答えを探す力が試されたということです。
【関係法令】関係法令は複合問題で出題されることが多いのですが、今年はＮｏ23 でバリアフリー法、Ｎｏ24 で省エネ法がそれぞれ単独での出題です。しかも、新規の内容が多く含まれていました。新規の肢でもその法の枠組みが理解できていれば正答できます。関連法令では、法の全体構造を知っておくことが重要です。今回の問題は、特に「バリアフリー」「省エネ」にフォーカスして出題してきた感じです。これらのテーマは設計製図の「専用住宅」にも関係するところですので、注目しておきましょう。

●構 造

力学の計算問題がかなり難しかったです。しかし、文章問題は過去問ベースの問題が多く得点しやすかったので、平均すると**標準的な難易度の問題**だったと言えます。

【構造力学】

No１の断面の計算は難問でした。断面一次モーメントの計算で図心軸を出した上、偏心した軸についての断面二次モーメントを計算する必要があります。正確な計算が難しい場合は、勘を働かせましょう。二つに分割した長方形の断面積の断面二次モーメントの合計より少し大きいだろうと想像できれば、なんとか正答を選べたと思います。また、No３の単純梁の最大曲げモーメントの大きさを求める問題、No４静定ラーメンの問題、No５のトラスの問題、No６の座屈の問題とどれも計算が煩雑です。ここは、後回しにして、施工まで終わらせた後、最後にじっくり取り組む方法もあったと思います。

【各種構造】

Ｎｏ12 の木造建築物の構造設計に関する問題が新規の肢が混じっておりやや難しい内容です。しかし、肢２の「梁の切欠き寸法が材せいの 1/2 以下」が過去問ですので、怪しいと考えて 1/3 以下が思いだせれば正答を選べます。他の問題は、新規問題も少なくおおむね過去問が正答肢で難しくありません。

【建築材料】

こちらも易しい問題が多く点数を稼ぎたいところです。Ｎｏ24 の正答肢「針葉樹の基準強度はスギとベイマツのどちらが大きいか？」が新規の問題ですが、梁にはマツが使われると知っていれば正答できますね。二級建築士は木造と住宅に興味をもって情報を仕入れておく必要があるかもしれません。

●施 工

新規の内容が比較的多く、**標準的～やや難しい内容**でした。

特に木造に係る問題で難しい内容が多く、ここでも、二級建築士の試験では、「住宅」「木造」の比重が大きいことを感じさせます。

【施工計画～仮設工事】

Ｎｏ１の施工計画で新規の肢があり、施工になじみのない方にとっては難しい内容でした。しかし、他の問題はどれも頻出で、Ｎｏ２の肢５ビニル壁紙は縦置きに保管、Ｎｏ３の肢４作業床の床材の隙間は３㎝以下、Ｎｏ５の肢登り桟橋の勾配は 30 度以下、など確実に得点したいところです。

【各種工事】

Ｎｏ８鉄筋工事に関する問題で肢２のガス圧接の「片ふくらみ」は初めて出題される用語です。それでこれが正答肢ですので、やや難しい問題でした。No15 の木工事に関する問題は新規の肢が多く混ぜっていて難しい問題です。正答肢の４「構造用面材の相互のあきは６㎜」が正答で平成 26 年に出題されていますが、頻出ではなく、なかなか難しい問題です。No16 の木工事における継手・仕口の問題も難問です。肢３の「渡りあご掛け」が天端をそろえることは出来ないので×ですが、これらの名称はなかなか押さえることは難しいと思います。

【積算・請負契約】
Ｎｏ25昨年につづいて民間建設工事標準請負契約約款（甲）からの出題ですが、こちらもやや難しい問題です。肢５の受注の履行報告について、第十一条に定めがあり、報告の相手は監理者でなく発注者であり、×となりますが、新規問題で正答肢なので、なかなか答えるのが難しかったと思います。

総評は以上になります。難問もいくつかみられましたが、ベースはやはり過去問で、全体的には標準的な難易度の問題と思います。過去問を中心にしっかりと学習した方は合格推定点を十分突破できたのではないでしょうか？
しっかり自己採点をして、次の準備を始めていきましょう。

合格見込みの方、次は設計製図試験です

ＴＡＣでは**「二級設計製図試験　課題（専用住宅：木造）概要説明会」**を

7/3（月）・5（水）・8（土）・9（日）に実施します！
詳細はこちらをご確認ください(TACホームページへ)。
https://www.tac-school.co.jp/kouza_kenchiku/kenchiku_gd_gd.html
つかの間の休息をとった後、いよいよ設計製図試験に向けて頑張りましょう！

皆様の好結果を祈念しています
ＴＡＣ建築士講座
令和5年7月3日

この総評の著作権は、ＴＡＣ株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されております。